

Book Review



朝倉書店
212 頁 (A5 判)
刊行 2023 年 3 月 1 日
定価 2,860 円
ISBN : 978-4-254-10300-7
C3040

中山哲夫 (著)

歴史から読み解く ワクチンのはなし —新たなパンデミックに備えて—

ワクチンは、1796 年のエドワード・ジェンナーの種痘から歴史が始まり、20 世紀には数多くのワクチンが開発され、現在でも多くの感染症予防の中心的役割を果たしています。小児科医にとって、自分が医師になってから導入が進んだワクチンについては効果を実体験として体感することができると思いますが (直近だと 2014 年の水痘ワクチンの定期接種化による水痘感染症の激減など)、既存のワクチンの開発背景やその具体的な効果について十分に理解していないことがあるのではないのでしょうか。

本書は、ワクチンの基本的な知識から現代にいたるまでの歴史、現在日本で使用されているワクチンから、未来への展望までを幅広く解説しています。本書を読み進めていくと、読者の理解を助ける詳細な解説のなかにも、そうだったんだ! という記載 (たとえば、種痘に使われたのは牛痘ウイルスではなく、馬痘ウイルスであった可能性がある、など) もあり、興味深く読み進めることができます。また日々の診療において保護者の方からよく相談、質問されることがあるワクチンの副反応や有害事象についても独立して項目立てされていますので、ワクチン接種に関する質問や懸念に答える立場にある小児科医にとって、本書は信頼性の高い情報源として非常に役立つと考えられます。

本書は、ワクチンについてより深く知りたいと願う一般の方々のみならず、ワクチンに関わる医療従事者、特に小児科医にとって非常に意義ある一冊だと思います。

(賛育会病院小児科 小松充孝)